

## 「ふるさと農林水産フェア・秋」で耕作放棄地の現状を消費者に説明

11月7日（金）～9日（日）に「ふるさと農林水産フェア・秋」が名古屋市の吹上ホールで開催され、東海農政局ではブース1つに我が国の食料自給率の推移や食生活、耕作放棄地、農山村の過疎化高齢化の現状などのパネルの展示及びDVD（「食料の未来を確かなものにするために」）の放映を行いました。

吹上ホールへの入場者数は3日間で合計3万1千人以上であり、多くの来客者が農政局ブースのパネルに見入ったり、ブース内に入って職員から説明を受けていました。

特に、ブース内でのパネル展示の説明に際し、耕作放棄地面積が平成に入って急増し、今や38万ヘクタールもあり、これは埼玉県よりも広い面積であるという説明を行った際には、「こんなにもあるの？」と思わずつぶやいたり、ビックリした表情をした人が多く見受けられました。

また、熱心にDVDを始めから終わりまで繰り返して見ている20～30代の若い来客者も見受けられ、食料安全保障が大きな課題の中、一般市民の食料への関心の高さが伺えました。

今後とも、様々な機会を通じて、食料自給率向上や農地保全の重要性などについて、普及広報活動を行っていきます。

【整備部設計課】

ブースに訪れた来客者／耕作放棄地に関するパネルについて説明する職員

